

(別紙)

障害福祉分野のICT導入モデル事業 事業報告書

自治体名 広島県

【基本情報】	
提供サービス（複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択）	
生活介護	
職員数（常勤換算数） 【「全職員の月間勤務時間数」／「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出（産休・育休、休職は除く）】	
18.8 人	
ICT機器等導入完了日	令和6年10月31日

（１）モデル事業の実施以前における当該事業所のICT機器等の導入・活用状況	
業務内容	ICT機器等の導入・活用状況
支援記録の作成	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
職員間の情報伝達・情報共有	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
請求業務	一部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
勤怠管理	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
シフト表作成	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
給与業務	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）

※「業務内容」に応じ、ICT機器等の導入・活用状況を選択してください。

①ICT機器等を導入していない（紙のみで対応）

②一部、ICT機器等を導入・活用している（紙とICT機器等に対応）

③ICT機器等を導入・活用している（全てICT機器等に対応）

（２）モデル事業実施によるICT機器等の導入状況				
ICT機器等の種別	導入目的	製品名	台数	備考
④インカム	②情報の共有化	icomインカムトランシーバー IC-4120BT	12	

※「ICT機器等の種別」については次の中から選択し、その種別ごとに導入目的、製品名、台数等を記載してください。

・情報端末等・・・①パソコン、②スマートフォン、③タブレット、④インカム

・ソフトウェア・・・⑤記録・情報共有・請求関連業務ソフト、⑥勤怠管理・シフト表作成・人事給与関連業務ソフト

・通信環境機器・・・⑦Wi-Fiルーター

なお、「⑧その他」を選択した場合には、「備考欄」に、ICT機器等の種別を記載してください。

※「導入目的」については、次の中から特に該当する番号を選択してください。

①作業の迅速化（支援記録の作成など）

②情報の共有化（職員間の情報伝達・情報共有など）

③業務の統合化（請求業務、勤怠管理、シフト表作成、給与業務など）

④その他

なお、「④その他」を選択した場合には、「備考欄」に、導入目的を記載してください。

（３）モデル事業を活用して改善を図った業務におけるICT機器等の導入前後の業務時間、作成文書量の状況							
① ICT機器等導入前の業務時間内訳							
業務内容	業務従事者数	発生件数		C. 1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり業務時間 (D／業務従事者数)	備考
		A.ひと月当たり発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
1 ②職員間の情報伝達・情報共有	20 人	1,320 件	15,840 件	5 分	1,320 時間	66 時間	利用者の突発的な行動や体調の変化を関係職員（複数）へリアルタイムで伝えることができない。
2 ②職員間の情報伝達・情報共有	10 人	880 件	10,560 件	10 分	1,760 時間	176 時間	外部からの連絡や緊急要件などが発生した際、対象職員を移動して探す必要があり、対応する職員の負担が非常に大きい。
3 ②職員間の情報伝達・情報共有	5 人	330 件	3,960 件	15 分	990 時間	198 時間	経験の浅い職員が適切な先輩職員にリアルタイムでアドバイスをもらうことが難しく、利用者の混乱を誘発してしまうことがある。
		2,530 件	30,360 件	30 分	4,070 時間	440 時間	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。

なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※１及び※２については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※１>A. ひと月当たり発生件数の算出方法	
1: 1日の発生件数（60件）×22日	→ 1320件
2: 1日の発生件数（40件）×22日	→ 880件
3: 1日の発生件数（15件）×22日	→ 330件

<※２>C. 1件当たりの平均処理時間の算出方法	
1: 利用者の突発的な行動や体調の変化を関係職員（複数）へ伝えるために、探して伝えるため時間が1件につき5分程度かかる。	
2: 外部からの連絡や緊急要件などが発生した際、対象職員を移動して探すための時間が1件につき10分程度かかる。※1より時間がかかるのは対象となる職員がより広範囲のため	
3: 経験の浅い職員が先輩職員を探す時間及び見つからない間の対応のリカバリーに費やす時間が1件につき15分程度かかる。	

② ICT機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C. 1件当たりの 平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり 業務時間 (D／業務従事者数)	備 考
		A.ひと月当たり 発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
1 ②職員間の情報伝達・情報共有	18 人	1,050 件	12,600 件	2 分	420 時間	23 時間	
2 ②職員間の情報伝達・情報共有	7 人	1,100 件	13,200 件	3 分	660 時間	94 時間	
3 ②職員間の情報伝達・情報共有	6 人	220 件	2,640 件	8 分	352 時間	59 時間	
		2,370 件	28,440 件	13 分	1,432 時間	176 時間	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。
 なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A. ひと月当たり発生件数の算出方法

1: 1日の発生件数（平均48件）×22日 → 1050件
2: 1日の発生件数（平均50件）×22日 → 1100件
3: 1日の発生件数（平均10件）×22日 → 220件

<※2>C. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

1: 利用者の突発的な行動や体調の変化を関係職員（複数）へ伝えるために、探して伝えるため時間が1件つき 2分程度 に圧縮された。
2: 外部からの連絡や緊急要件などが発生した際、対象職員を移動して探すための時間が1件つき 3分程度 に圧縮された。
3: 経験の浅い職員が先輩職員を探す時間及び見つからない間の対応のリカバリーに費やす時間が1件つき 8分程度 に圧縮された。

年間業務時間数削減率（％）

64.8%

（4）ICT機器等の導入効果

① 事業所におけるICT機器等導入の推進方法

・販売業者による機器の説明会を実施 ・試験的に実機を使用して一定期間業務を実施し、各自の感想を集計 ・利用マニュアル作成および利用方法の改善
--

※事業所において、ICT機器等の導入をどのように進めたか（事業所内の推進体制、外部への相談など）を記載してください。
 また、事業所にICT機器等の導入にあたり工夫した点、苦労した点がありましたら、その点も記載してください。

②ICT機器等の導入による業務の変化（複数選択可）

情報端末導入による効果
☐ 1 支援記録の作成に要する時間が減った。 ☐ 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。 ☒ 3 インカム等の導入により、職員間の情報伝達や職員の移動負担が軽減した。 ☐ 4 利用者の情報を一元管理できるようになった。 ☐ 5 その他の効果があった。 ☐ 6 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

ソフトウェア導入による効果
☐ 1 支援記録の作成に要する時間が減った。 ☐ 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。 ☐ 3 利用者の情報を一元管理できるようになった。 ☐ 4 記録業務、情報共有業務、請求業務を一気通貫で行えるようになった。 ☐ 5 勤怠管理、シフト表作成等の業務を一気通貫で行えるようになった。 ☐ 6 その他の効果があった。 ☐ 7 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

③ICT機器等の導入による業務効率化及び職員の業務負担軽減の状況

・職員を探すための時間が大幅に削減され、その分を利用者支援に関係する時間にあてることができるようになった。 ・リアルタイムな利用者の情報を伝達することが容易となったため、より質の良い支援につなげることができるようになった。 ・現場で発生した事象の相談がリアルタイムでしやすくなったため、職員の負担感が軽減し、安心感が増すことになった。

※ICT機器等の導入により、どのような業務改善ができ、どのような業務効率化が図られたのか、また、職員の業務負担軽減にどのような効果があったのか、具体的に記載してください。

④ICT機器等の導入による業務効率化で確保できた業務時間の活用方法

・利用者の支援方法に対するMTG、協議時間、利用者の余暇活動などの強化

※ICT機器等の導入により、業務効率化で確保できた職員の業務時間について、他のどのような業務に活用できたかなど、具体的に記載してください。